

第2章 めぐる学校教育プランで目指す子ども像・学校像

教育目標・基本方針に掲げる理念を学校教育を通して着実に実現していくために、平成18(2006)年度の学校教育プラン改定で大きな目標として定めた「目指す子ども像」と「目指す学校像」は、現状においても有効性を保つとともに、学校や保護者、地域に浸透していることから、これを継承します。

1 目指す子ども像

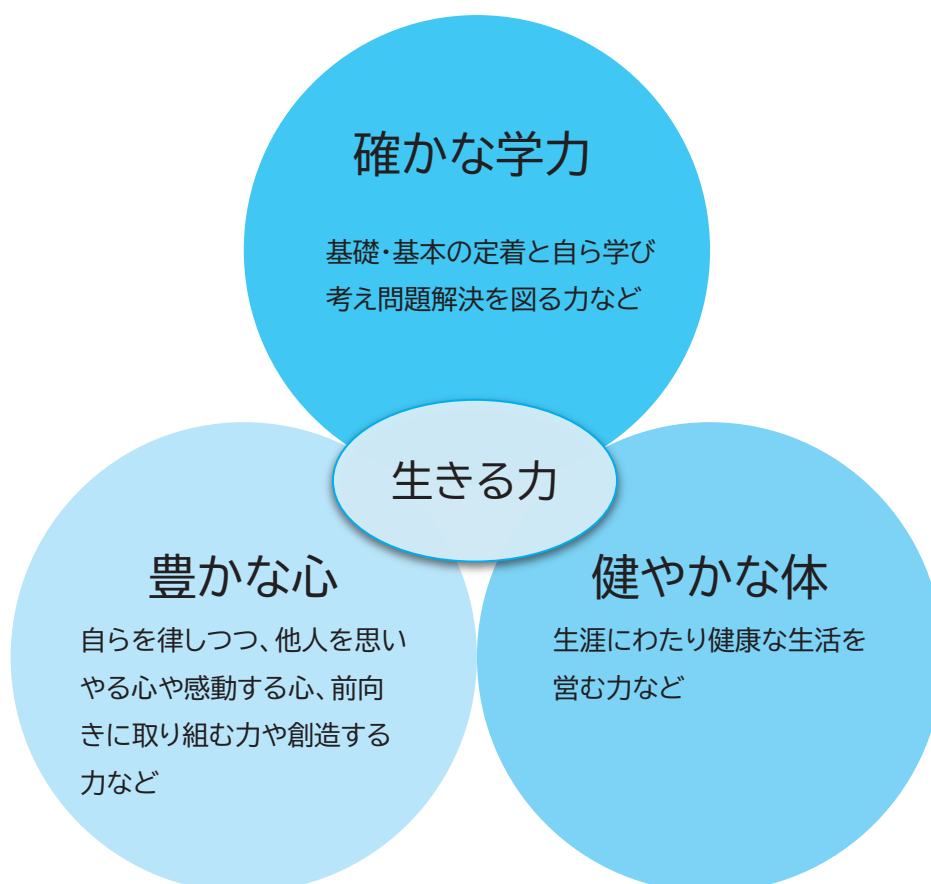
<21世紀をたくましく生きる人間性豊かなめぐろの子ども>

変化の激しい21世紀においては、一人ひとりが個人として自立し、社会の一員として、それぞれの分野でたくましく生き抜いていく力を身に付けることが求められています。

そのための基礎となる力を培う学校教育は、児童・生徒に、主体的に学習に取り組む姿勢などの学ぶ意欲をはぐくみ、「確かな学力」を身に付けさせます。さらに、人権意識や道徳心を基底とする「豊かな心」、生涯にわたり健康で活力ある生活を営むための「健やかな体」をはぐくみ、知・徳・体のバランスのとれた豊かな人間性を養うことが重要な役割です。

教育委員会と学校は、学校教育プランの施策を通して、21世紀をたくましく生きる人間性豊かなめぐろの子どもの育成を目指します。

21世紀をたくましく生きる人間性豊かなめぐろの子ども



2 目指す学校像

<魅力と活力にあふれ、信頼される学校>

「目指す子ども像」を実現するための基盤となる学校像を「目指す学校像」としました。

次代を担う子どもたちが、確かな学力を身に付け、心身とも健やかに育つことは、保護者、地域における全ての人々の願いです。学校教育は、人間形成の礎となる極めて重要な役割を担っており、そこに集う子どもたち相互の好ましい触れ合いを土台にして、夢や希望を抱いて成長できる場として期待されています。

子どもたちが、楽しく学び、活動し、一人ひとりの子どもに応じて、確かな学力、豊かな心、健やかな体など「生きる力」をはぐくむ「魅力ある学校」、子どもたちと教職員が共に生き生きと学び活動できる「活力あふれる学校」、学校を地域に一層開き、家庭や地域との連携・協力を重視した取組を展開し、子ども・保護者・地域から「信頼される学校」を目指していきます。

魅力と活力にあふれ、信頼される学校

